

第111回 ほほえみ 開催

6月20日（水）第111回 ほほえみを開催しました。
8名の方が参加してくれました。

今回はお別れの回になりました。リフレクソロジーボランティアとして参加者のこころもからだも癒してくれていたボランティアさんが今回で最後となってしまいました。また、長く参加してくれていた方が、ご家族の近くにとということで、北見から遠く離れた土地へお引っ越しされました。お二方の今後のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。そして、機会があればまたほほえみに顔を見せに来て頂けることを参加者一同お待ちしております。



次回のほほえみは、7/18（水）14時から16時まで
本館3階 特別会議室での開催となります

【がんサロン事務局】

『オーダーメイドながん治療』

（がん体験記）

大きな病気はほとんどしたことがない。手術をしたことといえば、子供の頃の盲腸くらい。病院に行くのは風邪をひいたとき――。

そんな私が乳がんという病と向き合うことになった。突如として起こった“がん告知”という衝撃に、戸惑いとためらい、そして右往左往する毎日。

が、がんであることをすぐには受け入れられない思いは置いてきぼりのまま、手術に向けて着々と検査がはじまってゆく。

そんな中、驚いたのは、自らの意思で治療を決められることだった。昔は医師の言う通りにしていたイメージだったからだ。

「風邪ひいたんですけど・・・」と症状を伝えると、

「風邪かどうかは私が決めることだ」。

そんなことを医師に言われたことがあるとかないとか。医師の前では緊張するのは当たり前だったその時代。

それが今では治療の提案とともに、

「どうしますか？」と意思を促される。

たとえ同じがんであっても、患者それぞれの生き方、年齢、置かれている環境や立場によって思いは様々だ。治療法がいくつかあれば、そこから自分の人生に合わせた選択ができるのは、患者自身が自らの病とより深く向き合い、考えられるようになった大きな要素だろう。

がん治療は一人一人に合わせた、まさに『オーダーメイド』といえるのかもしれない。

（北海道／女性／乳がん／がん患者本人）